

# 頭痛

- ・ 頭痛の種類
- ・ くも膜下出血による頭痛
- ・ 脳腫瘍による頭痛  
腫瘍が部位とその症状  
原因とリスク  
電磁波の影響はあるのか？
- ・ 電磁波と磁気の頭痛との関連性
- ・ くるみの感想
- ・ Dr.NO(方安庵院長) の一口講座

※このまとめは、新聞や文献、ネット上の情報などより得たものを整理してまとめたものとなっております。

参考引用文献に関しましては最後のページに掲載させていただきました。ありがとうございます！

また、最新の情報は各自で医療機関にてご確認下さい。

# 頭痛

Wikipediaによると、「日本人の3、4人に1人が頭痛持ち」と言われているそうです。なんと、約3000万人もの人が頭痛に悩んでいるのです。

そのうちの、2200万人が緊張性頭痛、840万人が偏頭痛、1万人が群発頭痛といわれ、くも膜下出血・脳腫瘍による頭痛は、毎年約1万人 - 3万人に発生するそうです。」（Wikipediaより引用）



## 頭痛は大きく分けて3つに分類されます。

### 1) 自然に治る頭痛

風邪を引いたときに起こる頭痛や二日酔いのときに起こるような頭痛です。

### 2) 強い痛みを伴う慢性頭痛

「一次性頭痛」と呼ばれ、頭痛に悩んでいる方の約9割は一次性頭痛なのだそうです。更に、偏頭痛 ・ 緊張性頭痛 ・ 群発頭痛 の3つに分類されます。特に偏頭痛は女性に多いようです。

圧倒的に女性に多いとされているのは、「女性ホルモンのエストロゲン」が関係していることが多く、月経周期に発生する頭痛は「月経関連片頭痛」と呼ばれます。

### 3) 命に関わる危険な頭痛

「二次性頭痛」と言って、脳などの病気で起こる頭痛です。放っておくと命に関わる場合もありますので手遅れになる前に早期発見、早期治療が必要です。

## ◆くも膜下出血による頭痛

二次性頭痛の代表格とされている「くも膜下出血」。脳動脈瘤という血管のコブが破裂することで起こります。

### <くも膜下出血の特徴>

- ・今まで経験したことのないような突然の衝撃感で、意識を失ってしまうことさえある。
  - ・めまいや気が遠くなるような感じなどの異変が“突然”起こる。
- 

## ◆脳腫瘍による頭痛

脳腫瘍には種類があります。

「**転移性脳腫瘍**」 → 他の臓器からガンが転移するもの

「**原発性脳腫瘍**」 → 脳そのものからガンが発生するもの

### <脳腫瘍の特徴>

- ・くも膜下出血のように突然起こることが少ない。数ヶ月～数週間にかけてゆっくり強くなっていく。
- ・原発性脳腫瘍には、良性と悪性の2種類あります。適切な治療を受けることにより改善することも多い。
- ・しかし、全体として悪性のものが多く見られ、腫瘍細胞の形や悪性度、発生部位により、いくつかの種類に分けられる。

詳細は、次のページ！

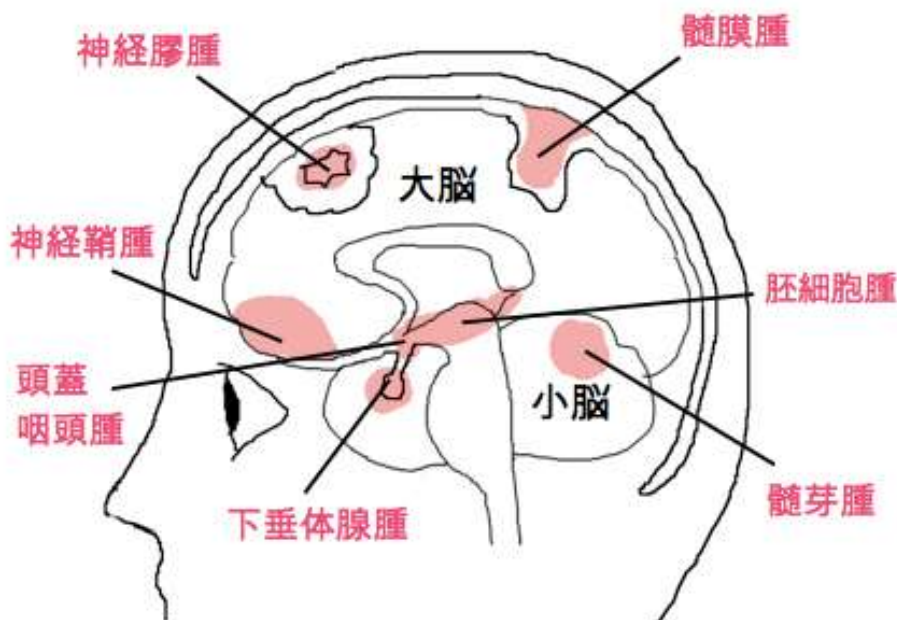
## ○脳内のできる場所によって種類が違う

原発性脳腫瘍の種類と割合

脳腫瘍の種類	割合	
●神経膠腫	28%	悪性
星細胞腫	(28%)	比較的良性
悪性星細胞腫	(18%)	悪性
● <b>膠芽腫</b>	(38%)	悪性
髓芽腫	(4%)	悪性
その他	(18%)	
●髄膜腫	26%	良性、一部悪性
●下垂体腺腫	17%	良性
●神経鞘腫	11%	良性
●先天性腫瘍 (頭蓋咽頭腫など)	5%	比較的良性
●その他	13%	

国立がん研究センターがん情報サービスより引用

国立がんセンターがん情報サービスの表を見ると、**最も多く見られるのは神経膠種（グリオーマ）**。このグリオーマの中にもいくつかの種類があります。なかでも**膠芽種と呼ばれるものは最も悪性で、最も頻度の高い腫瘍とされています**。小児ではまれで、60歳以上の高齢者になるほど頻度が高いそうです。



## ○脳腫瘍がおこす症状

### 1) 慢性的な頭痛

初期で2割、さらに進行が進むと約7割の方にみられます。一番強く感じるのは起床時で。時間が経つと少し改善していく傾向があるようです。



### 2) 原因不明の吐き気や嘔吐

頭痛と一緒に吐き気が続きます。嘔吐してしまう場合もあります。下記にある頭蓋内圧亢進症状の可能性がありますが、原因不明ととらえられることが多いようです。



●**局所症状**（腫瘍自体が神経を圧迫、壊すことで発生）と、

●**頭蓋内圧亢進症状**（限られた頭蓋内スペースの中で腫瘍が大きくなり、嘔吐や頭痛が発生）があります。

脳といえば、運動や感覚など様々な機能を行うために活動をする、神経の中核となっています。

## 腫瘍が出来てしまうと、どういうことが起こるのでしょうか？

以下が、局所症状の例です。

### (1) 前頭葉

前頭葉の運動野は手足を動かす命令を送る部位です。左側に腫瘍ができると右半身の麻痺がおこり、右側に腫瘍が出来た場合は左半身に麻痺が起こります。

### (2) 脳の前の方にある前頭葉

この左側に腫瘍ができた場合、右利きの人は無気力や痴呆様行動などの性格変化が起こり、言語障害、尿失禁、右半身の麻痺などが起こります。

### (3) 側頭葉

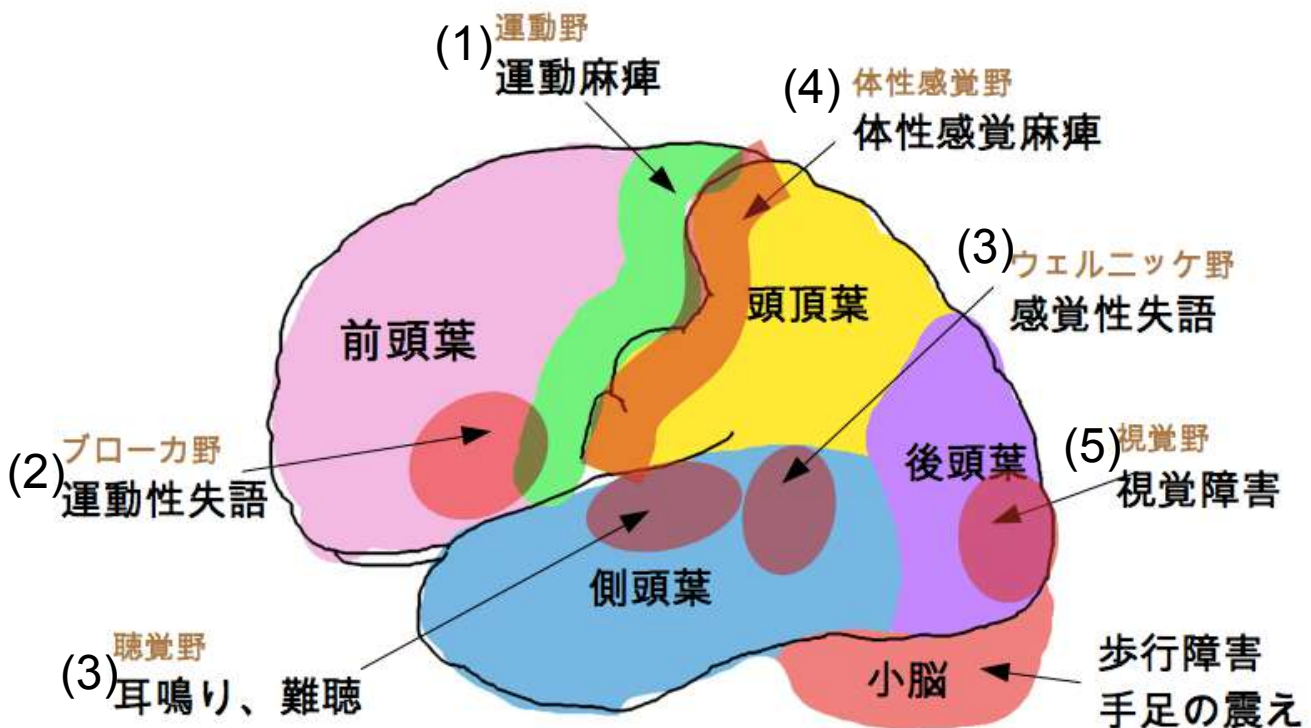
側頭葉に腫瘍ができると物忘れがひどくなる。言葉は聞こえていても意味を理解することが難しくなる感覚性失語の症状がでます。

### (4) 頭頂葉

頭頂葉に腫瘍ができると感覚が失われたり、または変化してしまいます。場合によっては両目の視力が部分的に失われ、両目とも腫瘍とは反対側が見えなくなることがあります。

### (5) 後頭葉

頭の後ろ側にある後頭葉に腫瘍ができると、両目の視力が部分的に失われ視野狭窄や視野欠損といった症状がみられます。



## ○原因とリスク

一体なぜそのような腫瘍が出来てしまうのでしょうか？これに関しては、現在の研究段階でははっきりとわかっていません。

ですが、統計的にみて考えられるものとしては、

遺伝子の変異      携帯電話やパソコンの電波  
放射線の被曝  
有機溶剤などの化学物質      高齢者や子供

などに該当する方が多いことにより、こういったものが原因なのでは？という考えがあるようです。

がんのきほん「脳腫瘍の原因とリスク」より引用

確かに携帯電話やスマートフォン、パソコンの電波って長時間使用していると、脳に悪影響が起こったりして脳腫瘍の発生リスクが高まりそうですよね。。よく就寝の際は、枕元に置いてはいけないというのを聞きます。実際に頭痛が起こるといふ報告もあるそうです。

ですが、脳腫瘍の発生リスクとの因果関係ははっきりとはしていないのが現状のようです。

電磁波問題に関する話題がいくつかありましたので、次のページにてご紹介します！

## ○携帯電話、スマートフォンの電磁波問題に関する記事

最近の報告を見る限り、「発がんリスクの増加は認められない」ということで納得してもよいのでしょうか・・・？

「携帯電話の電磁波とがん発症の関連性について、世界保健機関（WHO）の専門組織、国際がん研究機関は31日、「聴神経腫瘍や（脳腫瘍の一種である）**神経膠腫（こうしゅ）の危険性が限定的ながら認められる**」との調査結果を発表した。」 出典（**2011年6月1日** 毎日新聞）

「**グリオーマの発生のリスクがあることが報告されており、過度の携帯電話による通話は避けたほうが良いと考える**。子供は成人に比べて携帯電話によるエネルギーの脳への影響が2倍以上という報告もあることや、20歳未満の子供が長時間携帯電話で通話した場合の発がんへの影響についてはまだ報告されていないため、小中学生・高校生の携帯電話の使いすぎは注意すべきである。」

出典（**2011年6月28日** 携帯電話と発がんについての国立がん研究センターの見解）<http://www.ncc.go.jp/jp/information/pdf/20110628.pdf>

「携帯電話で1日30分以上の通話を5年間続けると、**脳腫瘍が発生する危険性が2倍から3倍に増えるとの調査結果**をフランスの研究者がまとめたことが13日、分かった。AFP通信など仏メディアが報じた。」 出典（ヤフーニュース **2014年5月14日**の記事）

「携帯電話の電磁波はがんのリスクを高めるか」。この気になるテーマについて2011年、英医学誌BMJにデンマークの研究が掲載された。研究は全デンマーク国民が持つ個人IDを使い、診療情報データベースと携帯電話会社の契約記録を結びつけ、携帯電話の使用と脳腫瘍の発生頻度を調べた。延べ380万人を分析した結果、携帯電話の契約期間が長くても**脳腫瘍の発生は増えておらず「発がんリスクの増加は認められない」と結論付けた**。 出典（**2015年9月24日** 毎日新聞 東京朝刊）



## ○ 「電磁波」と「磁気」の影響

携帯電話やスマートフォン、パソコンの電磁波は、がんのリスクを高めるかどうかという問題に対して「脳腫瘍の発生は増えておらず「発がんリスクの増加は認められない」と結論付けた。」ということでしたので、  
ついでに強い磁気が発生する磁気ネックレスのようなものは大丈夫なのかどうか調べてみました。

→ 電磁界情報センターのホームページによると、「磁気ネックレスなどの電磁界は、健康に悪い影響を及ぼすのでしょうか？」という質問に対して、「2006年に世界保健機関（WHO）から静電磁界のリスク評価書（ファクトシートNo299「静電界及び磁界」）が公表されており、発がん性については疫学研究結果がほとんどないため分類できないとの見解です。」とありました。

やはりこの辺りははっきりしていない様子です。。

磁気ネックレスなどの商品は血行を良くし、肩こりなどを解消してくれるものとして有名です。ということは頭痛にも効果的なのではないでしょうか？

肩こりが解消すると同時に肩こりによる頭痛も取れるのでは？と思いましたが、どうやら逆に「副作用で頭痛を発症する。」という方が結構いるようです。



### 血行が良くなったのが原因？

偏頭痛は血管が異常に拡張したときに起こる頭痛といわれています。

磁気ネックレスをつけることによって、血の流れがよくなり、逆に頭痛が起きてしまうのではないかと考えました。

●偏頭痛・・・ストレスや緊張などにより収縮した血管が、運動をしたりストレスから解放されたとき、急激に拡張することがあり、これが原因で引き起こすものとされています。

### 「フレミングの法則」で血行を促進

なぜ磁気で血行が良くなるとされているのか、TDKのホームページにて『血液成分の中には、プラスイオンとマイナスイオンに電離するものが含まれています。これが血管中を流れるということは、電流が流れることに等しく、ここに磁石によって磁場を加えると、「フレミングの左手の法則」により力が発生。この力がイオンの流れを活発にし、血液の流れをよくすると考えられている。』と紹介されていました。

（出典：TDK「磁気と生体 第1回「磁気と肩こり豆知識」-血行をよくして、筋肉のこりをほぐす磁気-」<http://www.tdk.co.jp/techmag/magnetism/zzz01000.htm>）

## くるみの感想

今回頭痛という大きなテーマを紹介させていただきましたが、頭痛にはさまざまな種類も原因もあります。電子化が進んでいる現代、もしかしたら電磁波や磁気も脳に影響しているのではないかと興味を持ちました。

前のページで述べた、携帯電話やパソコンの電磁波の体への影響、磁気ネックレスのような商品の磁気による体への影響。どちらも脳にあまりよくない影響を与えるように私自身は思いましたが、これらの脳への影響に関してはどちらも様々な意見があったので結論としては、はっきりはしませんでした。

私も最近減りましたがよく偏頭痛を起こしていました。頭痛には怖くない頭痛と、怖い頭痛とあります。ただの頭痛と思って放置していると手遅れなんてことにもなってしまいます。

突然今まで経験したことがない頭痛が起きたり、痺れや麻痺など神経症状を伴うような頭痛が起きるなど、少しでも変だな・・・と思ったら早めに病院で検査をしてもらうのが大切です。

今回も頭痛という広いテーマを扱うにあたってたくさんの文献を引用、参考にさせていただきました。関係者の方々ありがとうございました。

ではでは最後に

## ～Dr.NO(方安庵院長)の一口講座～

頭痛は、頭痛のみを症状とするものと他の病気の1つの症状として出るものがあります。ちょっと言い回しが専門的になりますが、前者は1次性、後者は2次性と分けて呼ばれます。1次性のものには、昔からある肩こり頭痛（側頭筋などが凝るわけではないですが）、片頭痛や交感神経性の群発頭痛などがあります。この最後にの自律神経性のものは、その臨床症状から、三叉神経痛、発作性片側頭痛(PH)、短時間持続性片側神経痛様頭痛などが含まれ、最近では、それぞれ鑑別されることも多く、ずいぶん複雑になりました。特に、最後の短時間持続性片側神経痛様頭痛は、片側の結膜充血や涙を伴うもの (SUNCT)と伴わないもの (SUNA)に分けられています。涙が自然にでるのも自律神経の症状ですね。

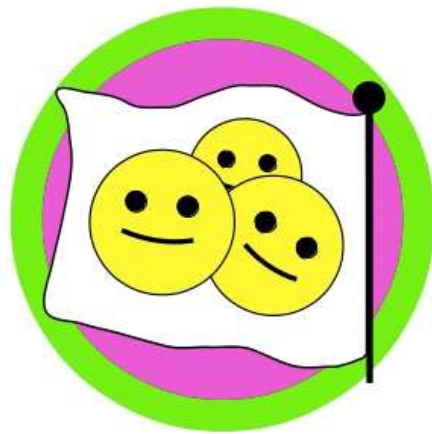
注意ですが、もっとも強い自律神経症状にも、片方の目（眼裂）が細くなり（眼瞼下垂ですね）、そちら側の発汗がなく、よく見ると瞳孔が小さくなっている、といった症状の組み合わせに頭痛をともなっているものは、眼瞼下垂側の脳にできた脳腫瘍が原因、つまり危険な2次性のものが含まれることもあるので、自律神経か、などと軽く考えないで、よく診てもらう必要があります。この組み合わせをホルネル症候群と古くから呼んでいます。

それ以外のものとして、座ったり立ったりの動作をすると、小一時間位ででる低髄圧性（体位性：POTS）の頭痛とか、1次性新規発症持続性連日性頭痛(NPDH)というやたら長ったらしいが、よくみると、臨床症状を羅列しただけっと言う、自律神経性の頭痛なども知られる様になりました。これら以外にも、持続性片頭痛様とか、1次性疝痛性とか、咳嗽性、運動性、睡眠時、雷鳴頭痛など、様々なキッカケや症状からの分類がなされ、面倒ではありますが、以下に触れる、危険な2次性の頭痛との鑑別の為に、しかたのないことでもあります。危険な頭痛は見逃すと、命に関わるからです。

さて、危険な2次性のものには、髄膜炎や、くも膜下、硬膜内外の血腫、脳腫瘍、緑内障、副鼻腔炎（これも放置すると、脳膿瘍など起こす可能性もあるんです）など、だれが考えても理解し易いものが多いですね。

けれど、1次的なものでも、異常に強い症状や、不眠、意識障害を伴うものは危険ですし、側頭動脈炎（巨細胞性動脈炎）のように、放置すると、虚血性視神経障害（血流が途切れることによる強い障害）を生じる危険なものも含まれます。

○文献：「Dr徳田の診断推論講座」：徳田安春、第一版、医事新報社、東京、2015



## <文献>

ありがとうございました！

- 1) Wikipedia「頭痛」
- 2) 大阪 たかせクリニック  
「「こわい頭痛」と「こわくない頭痛」」
- 3) 国立がん研究センターがん情報サービス 「脳腫瘍（成人）」
- 4) がんのきほん「脳腫瘍の種類と分類」
- 5) 携帯電話と発がんについての国立がん研究センターの見解
- 6) 神奈川県「ゲルマニウム使用アクセサリーの広告にご注意」
- 7) TDK「磁気と生体 第1回「磁気と肩こり豆知識」」

ネットニュースや、新聞記事

(そのまま引用させていただきました、ありがとうございます。)

- ・ 2011年6月1日 毎日新聞
- ・ 2014年5月14日 ヤフーニュース
- ・ 2015年9月24日 毎日新聞 東京朝刊
- ・ J-CASTニュースより  
「ゲルマニウムに「科学的根拠なし」 販売中止、返品検討で業界大騒ぎ」